

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『やすら木の家』に合わせた、「やさしく・すてきに・らくに・きょうを過ごしましょう。愛と自由があるこの家で」という理念を利用者さんたちと考え、利用者の一人に大きく書いていただき、それをロビーに掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念にあるように優しく素敵な毎日を送るにはどうしたらよいか、職員が各々考えサポートしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域にはなかなか浸透しづらい。利用者家族とは、日々の生活の中で、話し合いながら、やすら木の家の特徴を理解してもらっている。	○	運営推進会議を通じて、理念の説明を行っている。今後、地域にむけて認知症についての講座等を検討、より理解してもらえるよう努めたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員の出勤・退勤時にあいさつを交わす。それ以外には、自家製の野菜を届けていただいたりということがたまにある。		
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の保育園から運動会に招待されたり、中学生の職場体験の受け入れ、老人会から敬老の日の会合への招待等少しずつ交流する機会が増えてきている。	○	行事等に参加したい気持ちはあるが、受け入れが困難であるのが現状。今後は、こちらからアクションを起こしていきたいと考えている。

グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>6</p> <p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>「こどもを守る安心の家」への登録申請をしたり、個人では準備しづらい非常災害時に使用できる大型機材の準備を進めている。</p>	○	<p>認知症に対して、まだまだ理解されていないためか、地域との隔たりがある感は否めない。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7</p> <p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員で取り組んでいる。</p>		
<p>8</p> <p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>非常災害時の対応等、メンバーからの意見を参考に計画を進めている。現在取り組んでいる事案を相談したりしている。</p>		
<p>9</p> <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>困ったことがあれば窓口相談している。運営推進会議にも参加してもらい、サービスについて意見をもらっている。</p>	○	<p>事業所と接する時間を行政側にも作ってほしい。あまりに時間がなさすぎるのではないかな。</p>
<p>10</p> <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、継続的に講座に参加し、勉強中である。</p>	○	<p>事業所内部で勉強会を開き、職員に浸透させている。機会があれば外部の研修に参加させている。</p>
<p>11</p> <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>『虐待はしない』これを基本に職員全員が注意を払っている。</p>	○	<p>何でも一人で抱え込まず、みんなで努力しよう職員同士気配りしている。利用者さんや職員間でも気軽にコミュニケーションを取れる環境作りをしている。</p>

グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外にも、時間を設けて利用者本人や家族と話し合いをしている。また医療連携体制や重度化についての説明をその都度ご家族と話し合いをしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所を開放し、いつでも気軽に話せるよう努力している。職員が日々の会話の中で汲み取った不満等はカンファレンスを通じ、みんなの意見を求めるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎日の生活の記録である『今日の私』から読み取り、個々のケアプランに基づいて、『今月の私』『やすら木だより』といった通信物を家族に向けて毎月1回発行している。面会の際は、必ず近況を伝える。金銭の管理については、金銭出納帳にサインをいただいている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	『今月の私』に意見を書いていただき、返送してもらっている。場合によっては、家族を呼び、面談の場を設けている。	○	家族との面談の機会を増やしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回カンファレンスを行い、職員の意見や要望を聞く。食事の時間を使って話しを聞くようにしている。また『申し送り』や『今日の私』に些細なことも記入し、報告するようにしている。		

グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	他施設への見学を含め、勉強会等も行っていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		

グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	講演会や研修は、告知し、参加を募っている。またカンファレンス等を通じ、職員同士が向上心を持てるようにしている。	○	ケアプラン等課題を各々が理解し、問題が生じたら、ひとつひとつ解決していく前向きな姿勢で仕事に取り組んでいけるよう支援する。
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には利用者本人に会い、生活の様子を見に行き、話を聞くようにしている(アセスメント)。その人らしさを知るためにできるだけ自宅に出向くようにしている。	○	利用者本人のバックグラウンドを職員全員が把握するよう努める。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	アセスメント時に家族に同席してもらっている。また施設の見学の受け入れを随時行い、ご家族の相談にあたっている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人にとって一番良い状態で生活できるよう、双方意見を出し合い、ともに考えている。また本人も同席した話し合いの場を設けている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居やお茶にお誘いするなど短時間の訪問をしていただき、生活に馴染むまで、利用者本人の今までの生活リズムに近い形で過ごせるよう努力している。		

グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員だけでやっしまわらず、何かにつけて声がけをし、利用者も一緒に生活するようにしている。また職員が、利用者さんに相談し、経験に基づく様々なことを教えてもらったりしている。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時に近況をお伝えしたり、利用者本人の昔の話を聞いたり、日常の表情を撮影し、閲覧できるようになっている。困ったことがあれば、その都度連絡を取り合うよう努めている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の間に立ち、本人の要望などを伝えたり、ご家族の気持ちを代弁するなどして、よりよい関係作りに協力している。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所にドライブして出かけたり、友人への電話や手紙、訪問の支援に努めている。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係を把握した上で、さりげなく席をずらしたり、違う作業の手伝いを促したりしている。職員が間に入り、サポートすることでくつろいだ、自由な時間を過ごしてもらえるようにしている。仲間のお部屋へ訪問しあうときは、お茶をお届けし、楽しい雰囲気作りに努めている。	

グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設を訪問することは難しいが、入院の際はお見舞いに行き、退院後ダメージを最小限に抑えられるよう努力している。また退去した方を訪問する際に、仲のよかった方をお誘いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の会話の中で、聞き取れるような話題作りをしている。困難な場合は、時間をかけて表情を読み取ったり、家族から話を聞くようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービスの経過については、ケアマネージャーを通じ、情報提供をしてもらい、本人の生活がどのようであったか把握するよう努めている。職員会議で情報の公開等をしている。	○	職員全員が情報を共有できるよう努めたい。
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている	会話の中で、体調や心の状態、悩み等を把握するようにしている。会話の中から読み取れるよう職員が努力している。体調面では、毎朝バイタルチェックを行い、異変があれば、医療機関を受診している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人の職員の気づきを共有し、話し合い、様々な意見を聞いた上で、計画作成を行っている。毎月、利用者家族にケアプランやそれに伴う日々の様子を報告し、意見を求めている。		

グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月行うカンファレンスで、介護計画の見直しを行っている。変化や問題が生じた場合や話し合いが必要な場合は、その時点で時間を調整し、話し合いの場を設け、計画を見直し・変更し、必要なケアが行えるようにしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を『今日の私』に記入し、計画作成に活かせるようにしている。出勤したら、職員は『今日の私』や『申し送り』に必ず目を通すようにし、情報を共有している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整え、終末期に向けてのフォローをしている。また、入居希望者の見学等を随時行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方や、入居希望者等の見学に応じている。消防署員による避難訓練の実施もしている。ボランティア協会にも登録し、受け入れを実施している。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容、訪問マッサージの施術、無料の訪問歯科健診等利用している。		



グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらっている。今後より交流を深めて行きたい。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、基本的には家族同行での受診であるが、緊急を要する場合は職員が代行している。受診時には、日々の情報を提供している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	メンタルクリニックに受診、もしくは看護職員が定期的に相談に行っている。日々の生活に変化が見られれば、即相談・対応してもらっている。また、メンタルクリニックの先生による認知症についての勉強会を実施した。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎朝バイタルチェックを行い、看護職員がチェックしている。協力医療機関と連携し、体調に異変があれば、すぐに対応している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院と情報交換し、入院によるダメージを少なくできるよう努めている。また退院にあたっては、医療機関、家族と相談し、本人にとって危険がないよう準備している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する指針を定め、利用者本人がその対象になった場合、医療機関、家族と話し合いをし、サマリー等を参考にし、重度化に伴う意志確認書を作成している。また職員にも注意点等を周知し、本人の意思を尊重するケアができるよう努めている。		

グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>なにげなく要望を聞き出せるような会話をするよう心がけている。</p>

グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの希望に沿えるよう努力している。一人ひとりのペースに合わせることは非常に難しいが、できるかぎり利用者さん本位に生活できるよう支援していきたい。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者本人の希望があれば、家族に連れて行ってもらっている。特に希望がなければ、訪問の理美容を活用したり、近くの理容院に行ったりしている。染髪の場合は、職員と行っている。洋服は、自分の好みのものを選んでもらっている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しや、片付け等できる範囲で手伝っていただいている。個々の能力に合わせた食材の形状に配慮し、誤嚥の危険がないよう努めている。	○	嚥下に不安があれば、すぐに専門医を受診していただき、日々の食事の上での注意点を確認するようにしている。
55 ○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒・喫煙に関しては原則禁止している。おやつや好きな食材は買い物に同行してもらって、選んだりしている。年末年始等には多少のお酒を楽しんでいる。	○	ご希望により、晩酌をするときもある。今後も希望に沿えるように努めたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	昼間はできるだけ誘導し、トイレでの排泄を支援している。においや汚れ等不快な思いをしないよう配慮している。介助の際は、本人が嫌な思いをしないよう努めている。		

グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には本人の意思を尊重している。あまり入浴をしない方には、強制にならないよう声をかけ、入りたいときに入浴してもらえよう支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりにあわせて、休息をしていただいている。特に外出後は、部屋で休むよう促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日用大工の仕事をしてもらっている。材料や工具等について支援している。また自主的に漢字練習に取り組んでいる方へ道具等支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方には自己管理していただいている。一緒に買い物に出かけ、欲しいものを購入できるよう支援している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、近くの喫茶店に出かける等一緒に外出している。外出の希望があればできるだけ応じられるように努めている。	○	突発的な外出には、さりげなく声をかけ同行したり、危険がないように少し離れて見守るようになっている。

グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	個別の外出や温泉施設等まだまだ支援できる部分があるので、努力していきたい。
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	○	今後も本人の希望に沿って、手紙を書く機会を増やしていきたい。
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		利用者さんたちが心配するので、夜間、玄関のみ施錠。日中はすべて鍵をかけていないし、暖かい日はドアを開けたままにしている。

グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々のコミュニケーションを大切に、利用者さんがどこにいるかを把握するように努めている。	○	徘徊の際も、尊厳を傷つけないようさりげなく見守るようにしている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は、利用者本人または家族に話をし、すみやかに回収している。		
69 ○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を防ぐために、個々の利用者さんのできることを見極め、職員や家族と話し合い、最善策をとっている。		
70 ○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	外部の救命講習を受講したり、避難訓練時に看護職員によるレクチャーを受けるようにしている。	○	全職員が救命講習を受講し、応急手当や初期対応を冷静に行えるようにしていきたい。
71 ○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っている。地域に対しては、運営推進会議の場で、協力を要請している。	○	救命講習や防火管理者講習等を受講させ、職員の非常時に対する意識改革に取り組んでいる。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	できるだけ危険を回避し、その上で自由な生活を送っていただけるよう努力している。問題が発生しそうな場合は、家族に連絡し、最善策について話し合っている。		

グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェックでの異変やいつもと少しでも様子が違う場合は、すみやかに他の職員にも伝え、連携を取り合いながら、状態を記録し、急変等に対応できるようにしている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員が管理している。薬によって起こりうる症状や注意点は、口頭で説明し、『申し送り』に記入するようにしている。	○ 服薬している薬について、全職員が理解していけるようにしたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を中心とした食事作りを心がけ、朝の体操や散歩等の運動を基本に、できるだけ薬に頼らない排便につなげられるよう努めている。また排便チェック表を用いて、排便の状況を確認している。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の意思を尊重しながらも、声をかけたり介助を行ったりしている。年2回歯科医師による歯科健診を実施している。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量をおおまかに記録し、体重や日々のバイタルなどと併せて、健康状態をチェックしている。利用者さんの食べやすい食事作りをし、職員との会話の中で水分摂取等を奨めるようにしている。	○ 今後も栄養バランスに留意し、楽しめる食事の提供に努めたい。

グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ワクチン接種で対応できるものは、不可能な方以外職員も含め、全員接種している。早期発見・対応に努めている。特に注意が必要な時期の近くに、職員に再度感染症についてレクチャーしている。	○	全職員に感染症に対する知識を浸透させていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	清潔を心がけ、調理用具等の消毒を行っている。食材の鮮度に留意している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は施錠せず、常に開放している。玄関周辺にベンチやスロープを設け、どのような方が来ても、お迎えできるようになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間も清潔に保ち、みんなが安全で使いやすい場所になるよう努めている。本やアルバムを置き、会話が生じるようにしている。	○	季節を感じられる植物を飾り、彩のある空間作りをしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先のベンチや和室、ロビー等設置できるところには腰を下ろせるような場所を作り、居室以外でもくつろげるスペースを設けている。またマッサージチェアを設置し、疲れを癒していただいている。		



グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	転倒などの危険を防ぎながらも、本人の居心地の良い空間作りを目指している。
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	緊急避難時のスロープなど改善できる部分を見直していきたい。
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周リや空間の活用</p> <p>建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所に○をつけること)	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホームやすら木の家(けやきユニット)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所には○をつけること)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開放的で、明るく、束縛されない、穏やかな生活を送っていただいています。会話によるコミュニケーションを介護の中心に据え、職員と利用者さんが家族のように過ごせるよう心がけています。私たち職員は、「介護の提供者」としてではなく、「生活のパートナー」となって利用者さんの暮らしを支えていきたいと考えています。